

# 原発ゼロをめざす長野県連絡会

第 27 号  
2016. 3. 18

事務局 〒381-0034 長野市高田 276-8 長野県労連内  
TEL 026-223-1683 FAX 026-227-1783  
ホームページ <http://kenrouren.assrv.com/genpatsu0/>

## 福島原発事故から5年、 脱原発・再稼働反対を訴えて全県各地で行動

「3・13サラバ原発長野県大行進 IN 松本に800人」

東電福島第原発事故から5年「脱原発信州つながろう  
フクシマ！ひろげよう脱原発！」の呼びかけに、市長選  
投票日にもかかわらず800人もの市民が集いました。

昨年京都大学原子炉実験所を退官した後 松本に居  
住されている小出裕章先生が特別スピーチをし「あの事  
故から超法規的な原子力非常事態宣言下には日本はこの5  
年間置かれ続けている。被災者たちの日常生活を奪った  
張本人たち東京電力の責任者たちは誰も罪を問われてい  
ない その事が原発事故を起こしても誰も責任を取る必  
要がないことを原発推進者たちに学ばせてしまった」さ  
らに「罰せなければならぬ根源はそれを推進してきた  
自民党である、この夏の参院選で自民党を打倒せねばな  
らぬ」と結びました。福島から松本に移住し5年たつ森永敦子さんは被災者の悩みは今なお深く続いていること



を涙ながらに訴えました。被災者の方々は時間が経つ程に疎外感が増している、一方、私たちは残念ながら忙し  
さに紛れ、日常の中で寄り添いえていないというのが現実です。原発事故の厳しさを痛感しました。それでも、  
たとえ企画であっても“忘れない市民”が集まった意義はあると思いました。

なくそう原発3・12飯水岳北のつどい ースライドトーク フクシマ漂流はつづくー



「いま、あらためて見直そう！福島原発の現状と問題点」を  
テーマに12日(土)いやま女性センター未来に48名がつど  
い菊池さんのスライドトークに共感し合う会となりました。

被災者が2重3重の生活で家族崩壊が進み、特に若い世代は、  
放射線からより安全な地域に移り住み、そこでの生活が定着し  
つつある現実。政府は基準値を1ミリシーベルトから20ミリ  
シーベルトまで上げ除染もそのレベルにし、帰還を急がせ損害  
賠償を打ち切ろうとしています。甲状腺ガンが104人と原  
発事故前の60倍にも達していること(国立がん研究センター)

や、三春町ではヨウ素剤を配付し甲状腺ガンがゼロという取り組みが注目をあびました。昨年9月に避難指示を  
解除された檜葉町の帰還者が459人(6%)ということなど多くのことが復興への課題であることが浮き彫り  
になった一方、飯水岳北の約50km圏内にある「柏崎刈羽原発の再稼働を許さない」とする特別決議が採択さ  
れ今後多様な行動を起こしていくことが確認されました。

着のみ着のまま逃げまどい、これからはふるさとに帰りたくても帰れない状況について、菊池さんは、写真展示にふれた文のしめくりで「第1漂流」からさらに5歳年を取り再び「第2の漂流」が始まる」とつぶっていることが印象的でした。

## 「放射NO！脱原発！3, 12佐久大行進



毎年のように雪降りの3.12放射NO!脱原発佐久大行進でしたが、なかなか中味の濃い集会でした。特に半田代表のあいさつには「感動」の声が漏れ、「原稿が欲しい」という人が。長岡さんの放射能スラップ裁判勝利の報告と原発汚染の現状のお話、

望月さんの福島原発と全国の原発の現状のお話、NPO 法人未来工房もちづきの高橋さんの「電力自由化学習会」のお話、どれも大変深いお話でした。資料が必要な方は地区評におたずね下さい。

アトラクションは「群青」を下平真弓さんが「花は咲けども」を軽井沢9条の会の山崎さんがしつとりと歌い会場が一つになりました。今後の活動を林さんが紹介、集会アピールは県教組小林さんが感情を込めて朗読、下平さん気合いの入ったラップ調コールで集会を締めくくりました。パレードは恒例となったイオン一周のコースで行われました。前のグループは望月さんの伝統的コール、中頃から後ろは楽しい藤岡さんのコールで元気に行進を終わりました。事務局からは150人を超える参加があったことが報告されました。またたくさんのカンパが寄せられました。

午後は教育会館に場所を移して佐久地域の土壌汚染調査のお話を専大の大井先生から伺いました。70人を越す人達が熱心にかくさんの質問がだされ、意見交換が行われました。さまざまな調査で危険な数字が出ていてもそれが外に出てこない、隠されていることも告発され、「市民が一人ひとり声を出していくことが重要」との大井先生の指摘を皆で確認し合いました。

## —福島原発事故から5年— つながろうフクシマ！ひろげよう脱原発！3.13長野行動に350人

3.13長野行動が南千歳公園で開かれました。会場は長野医療生協の皆さんがつくった寄せ書きの風車が回り黄色い旗に囲まれました。全員で黙とうを捧げた後、3名の共同代表が挨拶。大津地裁を歓迎し、原発再稼働に突き進む安倍政権への抗議。そして5年経ってもいまだに10万人を超える方々が



避難生活を余儀なくされていることへの思いが語られました。続いて、鬼無里在住の大日方聡夫さん（元日大教授・原子核物理学）から、大津地裁の仮処分決定には大きな意義があること。原発は人類が制御できない巨大なエネルギーを相手にしている。廃炉しかない。との特別報告がされ、あらためて、原発をなくそうとの思いを確認しました。集会後、参加者は「原発なくせ」などをコールし、市内をデモ行進しました。

